

アイレックまつり
レポート
2016.10.08-09

●講演会

もつとやさしく、
もつと自由に

「これからの男女共同参画と生き方の処方箋」

講師 香山リカさん
(精神科医・立教大学
現代心理学部教授)



昨今、女性活躍が盛んに叫ばれていますが、雇用上の男女差別をなくそうと男女雇用機会均等法が成立したのは1986年のことでした。当時も現在も社会の実態や個人の意識と法律の間にはまだまだ差があります。社会人になるとお酌するのはいつも女性社員で、女性が一步下がって男性をたてることが職場でも習慣であつたりします。もちろん仕事は男性同様にこなしつつ、女性らしさ、女性としての役割を強いられる場面も多く、女性自身も甘んじて受け入れている現実があります。

社会の実態や意識を変えずに女性活躍を叫んでも、女性の負担増になるばかりです。1985年に女性差別撤廃条約に批准し、清瀬市も男女平等推進条例を施行しています。雇用上の男女平等だけではない、社会において、政治において、市民としての男女平等が求められます。

このように、女性の地位を上げようと頑張ってきたのですが、2000年

ごろからか、仕組みの上では男女平等を目指しているのに、心や意識の上では必ずしもそうではない。女性には女子力の高さと評価されるため、自分の意見を持てず、その人らしさや本当の自分を見失っているように感じます。社会も女性自身の価値観も時代を逆戻りしてしまっているのはとても残念です。

だからこそ今、女性に対する価値観を見直していきたいと思っています。女性を見た目や年齢で判断し、女性はあるべきという価値観を持っていることはありませんか。男女が互いに話を聞き、意見や生き方を柔軟に修正できる関係を築くこと、男女にとらわれない関係を築くこと、それが結果的にその人らしさを大事にすることであり、やさしく自由に生きられることなのだと思います。

同じような立場、考え方をを持った者だけが集まれば、社会はスムーズにまとまるのでしょうか。一つの街にいろいろな人が暮らし、多様性がある方が互いに創意工夫をするので、長期的に見れば街は活性化し、ずっと成長すると言われています。

清瀬は病院の街という歴史的な背景もあり、いろいろな状況、立場の方を受け入れる街だと思っています。「手を組めば新しい風」にふさわしい街です。清瀬に住んでいることをぜひ誇りに！
(まとめ成田)

●子ども

「人権かるたをとろう」

今年は清瀬第四小学校五年生の皆さんが人権かるたを作成してくれました。



平和への願いや男女平等の願いが込められた札が読み上げられると、子どもも大人も一緒に必死に絵札を取り合っていました。会場には笑い声が絶えず、楽しいひとときでした。
(安井)

●音楽

「ギターと胡のタベ」

演奏 太田憲孝さん

井口シオリさん

今年度のテーマは「時代」。会場には100人以上の人が訪れました。懐かしの映画音楽や名曲に耳を傾け、作曲家の想いやこれまでの「時代」に思いを馳せました。
(福田)



●カフェ
聞いて笑っておしゃべりカフェ

ゆうゆう流ふまじめ介護

講演 田辺鶴瑛さん



介護の悩みが軽くなる鶴瑛さんの講演の楽しい話術に共感

し、カフェタイムの談話も弾みました。最後にはアイレック登録団体の活動紹介を興味深く聞きました。

●映画「何を怖れる」上映と
松井久子監督のトーク

女性が自分らしく
生きにくい時代に
「自分を生きる」
ことを怖れず、年
齢を重ね今なお、
前向きに生きる女性たちのドキュメンタリー映画。皆さん真剣な眼差しで鑑賞されていました。監督トークでは、質疑応答で意見交換が活発にされ、会場中に活気が満ち溢れていました。
(川村)



●登録団体・サポーターによる
展示・バザー

バザーはたくさんの人で大にぎわい。和気あいあいと話しながら買い物を楽しむことができました。展示では、想像以上の活動に驚きました。自分の興味がある活動に出会えるかもしれません。
(竹下)

